

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書を好む児童が多いが、量や内容に個人差がある。</li> <li>物語文や説明文では、正しく内容を読み取ったり、登場人物の気持ちの変化を考えたりすることができる児童が増えた。</li> <li>文法、文字や語句、漢字の定着に個人差がある。語彙の引き出しが少なく、自分の思いを表現する言葉を適切に引き出せない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司書と連携して各教科と関連ある本を紹介したり、児童同士でお気に入りの本を紹介し合ったりする機会を意図的に設ける。</li> <li>センテンスカードを活用し、どの言葉に着目したらよいかを提示したり、児童が心から「やってみたい、話したい」と思えるような学習課題の設定をしたりする。学習したことが一目で分かるような掲示物の提示などの視覚的な支援を取り入れる。</li> <li>教科を問わず様々な場面で書くことを習慣付け、書くことへの抵抗を減らす。</li> <li>文字数の制限を設けた要約文や詩や俳句などを考え、読み合う課題を出す。友達の表現を参考にさせる。</li> <li>文法、文字や語句、漢字のミニプリント等を家庭学習やけやきタイムで繰り返し練習し、定着を図るよう促す。</li> </ul>	
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習への興味・関心はとても高く、意欲的に調べ学習やまとめの活動を行うことができた。</li> <li>資料から必要な情報を読み取り、問題解決に向けて、読み取った情報を整理したり自分の考えと合わせたりする力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習を通して学んだことやこれからの生活に活かしたいこと等を家族や全校児童に呼び掛けたいという強い思いをもつほど、意欲や関心が高かった。今後、児童の思いを全校朝会や放送で主体的に呼びかける機会を設け、自分たちの言葉で学んだことを伝える活動を行っていく。</li> <li>資料の読み取り方が分からない児童には、読み取るポイントや全体の見方などを個別に支援する。また、問いに対する答えになるように、比較したり関連付けたりする活動を繰り返し行い、情報を整理して考える力を高める。</li> </ul>	
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年全体として、学習意欲が高い。</li> <li>課題や問題を解決するために、既習事項を活用して自分の考えをノートに書いたり発言したりすることができる児童が増えている。</li> <li>個人差はあるが、「角の大きさ」「わり算の筆算」の単元において、つまずきが多く見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、生活に根差した内容や、夢中で考えたいような問題の設定の工夫を行い、児童の学習意欲が沸き立つようにする。</li> <li>ヒントカード（拡大した数直線やグラフなど）を提示したり、ペアで考えを説明し合う時間を設けたりすることで、自分の考えを整理して書いたり発言したりすることができる児童が増えてきたので、2学期も継続して行う。</li> <li>けやきタイムや家庭学習などで、つまずきが多く見られた問題を重点的に取り組んだり、生活の中で活用する場面を意図的に設けたりして、定期的に学習する機会を設ける。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察や実験に目的や高い意欲をもって取り組む児童が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、身近な出来事や疑問の中から学習課題を設定し、実験や観察と実体験を結び付けて考えられるよう指導を</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の作業や班ごとの実験では、うまくいかない原因を見付けることができなかつたり、ねらいや手順を細かく示しても、なかなか理解できなかつたりする児童がいる。</li> <li>・実験や観察の結果から考察し、身近な出来事と結び付けて考える力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	<p>重ねていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何を調べるための実験なのかという目的を明確にし、実験の手順も順を追って視覚的にも分かるように明示する。ペアや班で何でも話し合える雰囲気の日頃からつくっておく。</li> <li>・予想を立てる際には、経験や知識を生かし、根拠のあるものにする。また、考察の際には、実験によって自分の予想を確かめることができたか、実験の結果から何が明確になったのか、という視点で書くように指導を重ねる。</li> </ul>	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想を感じ取って楽しく歌うことができる児童が多い。自然で無理のない発声にも前向きに取り組むことができるようになってきている。より響きのある歌声に繋げられるように、斉唱を今後も丁寧に指導し続けていく必要がある。</li> <li>・音楽を聴いて感じ取ったことを豊かな言葉で表すことができる。今後は、曲を最後までじっくり聴くことを大切に、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせながら聴き深めていけるように指導を続ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌を歌うために身体や声を使うことを意識させながら、教材の中でポイントを絞って学習を進める。お互いの声を聴き合ったり自分の歌い方を自分で振り返ったりして定着を図り続ける。</li> <li>・音楽を聴いた後に気付いたことを友達と共有して、全員が表出できる場面を多く設ける。友達の言葉からも学びが深まっていくように全体での共有に広げていく。曲を聴く前に、聴くポイントを明確に伝え、最後まで聴き続けることができるように、聴いている様子の観察や支援も続けていく。</li> </ul>	
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品制作への関心が強く意欲的に学習に取り組んでいる。</li> <li>・作品制作の進捗差が大きくなっている。</li> <li>・作品の仕上げが雑になってしまうことがある。</li> <li>・表したいものに応じて既習した技法を活用しようとする児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に合わせて題材を設定し、学習意欲が持続できるようにする。</li> <li>・完成までの時間を具体的に示して見通しをもたせることで、制作期間内に作品を仕上げられるようにする。</li> <li>・見本などを多く提示することで、丁寧さが作品の完成度に大きく関わっていることに気付かせる。</li> <li>・これまで経験した技法を振り返ったり、目に見える形で掲示したりして、活用できるようにする。</li> </ul>	
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備や片付け、練習やゲームなどの活動を協力して行うことができた。</li> <li>・チーム戦では、話し合いがうまく進まず、作戦がまとまらなかつたり、一部の児童の声だけで決まってしまうこともあった。</li> <li>・自分の力を高めるために、体の動かし方や目的に合った動きができるような学習内容や振り返りが</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な道具や準備の仕方を事前に視覚的に分かるよう提示しておくことで、自分たちで進められるようにする。なるべく練習やゲームの時間を多く確保できるようにする。</li> <li>・皆の意見を反映できるような作戦ボードやカードを用意する。ポイント掲示や映像資料を活用し、どの児童も気付きや思いをもてるようにする。自分たちの動きやよさを映像などで振り返れるようにタブレットPCを活用する。</li> <li>・作戦カードとは別に、体育ノートで個人の振り返りを行う。また、ポイント掲示や映像資料を活用し、自分の動き</li> </ul>	

	必要である。	や力の入れ方などを振り返る時間を設ける。	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文を通して道徳的価値について考える際、自分の経験から想起したり、自分事として真剣に捉えたりする児童が多い。</li> <li>道徳の授業の時間の中での発言やワークシートに書かれている気付きや思いを、生活の中に生かしていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の心を揺さぶる発問を挟んだり、「自分だったらどうするか」と投げかけたりすることで、自分事として捉え、道徳的価値についての議論が活発になったので、今後も持続していく。</li> <li>正論やきれいごとだけではなく、誰しものが抱える葛藤や心の弱さなどにも十分共感した上で、どうすべきかやどういう行動をとれたらよいかなどを話し合いを行わせる。毎時間、自分を見つめ直す時間を十分に設ける。</li> </ul>	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとにテーマや仮説が異なり、その真意を確かめるために学習活動を進めてきた。活動への意欲や興味関心を、最後まで持続してもつことができた児童が多かった。調べる、まとめる活動では、個人差があり、同じグループ内でフォローしたりアドバイスし合ったりして完成まで進めることができた。</li> <li>学んだことをポスターセッションで発表した。目的と相手意識をしっかりとちながら発表できたグループが多かったが、その一方でまとめ方や発表の仕方に課題のあるグループもあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の動機付けを丁寧に行ったことで、児童が興味関心を損なうことなく、最後まで意欲的に取り組めた。グループごとの進捗状況を適宜報告し合い、見通しをもちながら活動を進められた。今後も継続する。</li> <li>経験やスキルに個人差があり、調べ方が分からなかったり、情報を正しく読み取れなかったりする児童もいた。グループ内で調べ方を伝え合ったり、教員が個別に指導したりして少しずつこつをつかんできた。</li> <li>発表前のシュミレーションや発表後の振り返りを丁寧に行い、自分たちの発表の言葉や使う資料の精選、話し方などを吟味する時間を設ける。他者からのフィードバックを生かし、よりよい発表に仕上げるよう促す。</li> </ul>	
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国語活動2年目ということもあり、活動の流れの見通しをもちながら毎時間安心して取り組めた。ALTとも、積極的にコミュニケーションを取ろうとする児童が増えた。</li> <li>間違えることを恐れたり、自信がなかったりして、極度に声が小さくなってしまいう児童がいた。また、活用の場面では、正しい発音や文法を用いて伝えることに課題のある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の流れを黒板に提示することで、児童が見通しをもちながら学習に取り組めた。歌やゲームにも意欲的に取り組み、楽しみながら英語に慣れ親しむことができた。ALTと一緒に、児童がより英語に興味をもつ活動を考えることができた。</li> <li>発音などに不安が見られる場合は、練習時間を増やしたり、英語表現を簡単なものに直したりして、安心して発言できるように担当がフォローする。困っている児童には個別に声を掛けて絵カードなどを基に練習を促す。</li> </ul>	